

[研究ノート]

郷土の音楽と学校教育 —平塚市のある中学校の事例より—

光崎 美絵子

1. はじめに

学校教育における音楽科の学習指導は、明治時代以降とかく西洋音楽に偏りがちであった。しかし、新しい学習指導要領（小中学校平成 14 年度完全実施）では、我が国の音楽文化への関心や理解を深めることがこれまで以上に重視されるようになった。

生徒用の教科書にも変化が見られる。例えば広く用いられている教科書の一つ、教育芸術社『中学生の音楽』には、郷土の音楽に関して次のような記述が載るようになった。

「私たちの郷土には、四季折々に行われる祭りなどに伴った“おはやし”をはじめ、いろいろな楽器を使った音楽が伝えられています。おはやしに欠かせない太鼓や笛など、楽器だけで演奏されるものを聴いて、日本の心を映した郷土の音楽を味わいましょう。(中学1年)」(畑中ほか 2002-a : 48)

「郷土の芸能は、何にもましてその土地の風土を色濃く反映しています。郷土の芸能を知ることは、その土地に長く伝えられてきた歴史や文化を知ることでもあるのです。私たちも郷土の芸能に関心を持ち、地域の文化を次の世代に継承していく役割を果たしたいものです。(中学2年)」(畑中ほか 2002-b : 40)

ただ、音楽科の授業時数が削減されつつある現状の中、これまで同様、合唱などに取り組み、さらにパソコンを使った作曲など、新しいことも導入していくことを考えると、我が国の伝統音楽や郷土の音楽に割ける

時間は少ない。そこで音楽科の授業のほか、学校行事や「総合的な学習の時間」も活用して、郷土の音楽を扱うことを検討していきたい。

ここでは、神奈川県小平市立大野中学校における、祭囃子（太鼓）に関する平成 14 年度の取り組みを紹介する。県内でも、郷土芸能を地域で子どもたちに伝承している事例は数多くみられるが、この祭囃子も地域での伝承が盛んに行われており、神社の祭礼の時期には、自治会館や公園などで太鼓を練習する音が近隣に響きわたる。つまり、地域での教育力が生きており、新たに学校で奏法などを教える必要は無いケースである。ただ、地域での伝承に全生徒が携わっている訳ではなく、生徒個人の関心の度合いも様々である。学校教育としてどのようなかかわりが可能か、方向性を探りたい。

2. 平塚の祭囃子、大野中学校区の祭囃子について

市内には、いくつかの系統の祭囃子（太鼓）が伝えられており、神社の祭礼などの時に演奏されている。大野中学校区でも、真土、中原、豊田の三地区で祭囃子が伝えられている。真土神社、日枝神社、豊田八幡宮の祭礼時や地域のイベントなどで演奏される。この三つの地区の囃子は同じ系統であるが、伝承母体の町内ごとにリズムなどに違いがみられる。

自治会、保存会などを通し、子どもへの伝承が積極的に行われており、演奏に関わったことのある生徒も多い。そのような生徒の中には、学校でも机などで太鼓のリズムをたたいてみたり、リコーダーで笛の旋律を真似てみたりする姿も見られる。関心の高い生徒は、夏休みの宿題にも祭囃子を扱ったレポートを書いているので、引用する。

「～略～ 本県の祭り囃子は中世までさかのぼらず、江戸時代の享

保の頃、下総葛西地方から伝流したという小田原伝承が一番古い。 ～略～
しかし、現代県下二百ヶ所の祭囃子は錯綜して、音楽的に分類し
える状態ではない。

さて、県下各地の祭囃子の名称は、その地区の地名を冠するものが最
も多く、次はその社の名称を冠するものがある。(例) 豊田：豊田囃子

それらの祭囃子はどれも五人囃子系統の構成で、曲目も殆ど一致する
が、他に特殊な祭囃子が二ヶ所ある。 ～略～

ここで我々保存会が保存してきた曲目を紹介します。

①屋台ばやし：屋台 けんか 乱拍子 きざみ×2 かわちがい

②色物：宮昇殿 仕丁舞 治昇殿 人波 神田丸 ちょうちょ とんぼ
唐楽 鎌倉

③太鼓名：締太鼓（小）大胴（大） 太鼓以外：篠笛 すり鉦 おどり

①②③をすべて合わすと「里神楽」となる。

①②の曲を合わせると「五人ばやし」となる。」(生徒が自宅にあった文
献を参考に書いたものだが、文献についての詳細は不明)

3. 「総合的な学習の時間」と関連させて

新学習指導要領では、「総合的な学習の時間」が創設され、教育課程改
訂の焦点となってきた。[生きる力]を培う教育活動として重視されてい
る。ねらいとして、次の2点が示されている。

- 「 ① 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、
よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
② 学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求活動に、
主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考え
ることができるようにすること。」(文部省 1998：3)

指導目標、指導内容については各学校に任されているが、考えられる題材の一つとして「地域に関する学習」が挙げられる。

大野中学校においても、平成14年度の1年生は、「総合的な学習の時間」の一環として「平塚調べ」に取り組んだ。文化、産業、環境など各生徒が興味関心を持つ分野について調査、研究に取り組むなか、「平塚の芸能・音楽」として、祭囃子（太鼓）を研究テーマに取り上げた生徒がいた。

生徒たちは、豊田平等寺地区を対象に、夜の練習や祭り当日のフィールドワークを行い、パソコンのプレゼンテーションソフト「パワーポイント」を使用してまとめ、取材ビデオも用いながら学習発表会で発表した。



図（写真）1 生徒が発表に用いたパワーポイントの画面より「表紙」



図（写真）2 生徒が発表に用いたパワーポイントの画面より「練習の様子」

生徒の感想：太鼓が好きだったので調べられて良かった。

調べていて、自分も太鼓を叩きたくなりました。

調べるついでに太鼓も叩けてよかったです。

いろいろ太鼓のことを知れてよかったです。

生徒の撮影したビデオを見ると、地区の子どもたちや大人たちが太鼓の練習に取り組む様子のほか、練習後、お酒やジュースを飲みながらくつろぐ様子まで、いきいきと映っていた。地元の子どもによる取材なので、身構えることなく自然な姿を見せてもらえたようだ。また、その場の大人たちも本校の卒業生が多く、協力を得やすい面もあっただろう。

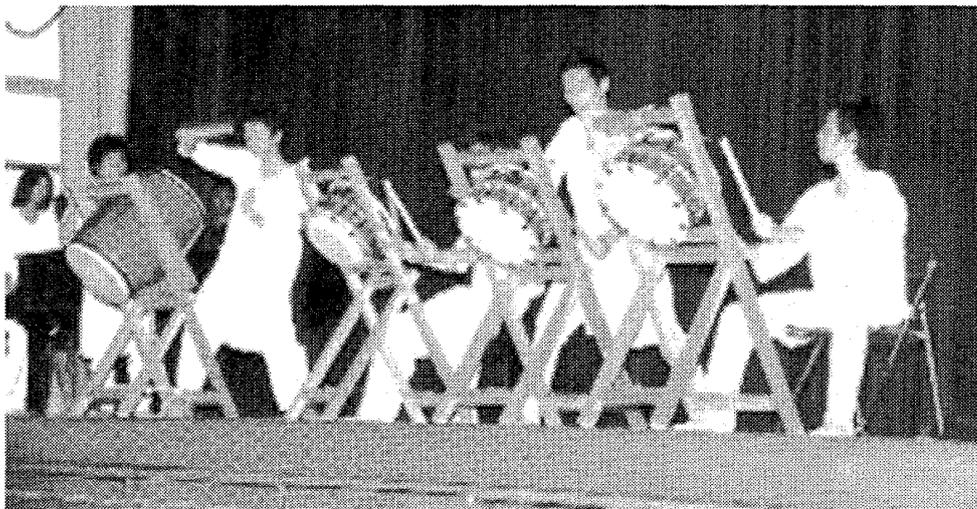
今回は、研究内容としてはあまり深めさせることができなかったが、調査の目的などを明確にさせることにより、さらに充実したフィールドワークが期待できる。

4. 学校行事(文化祭)と関連させて

14年度の文化祭(11月)の開会式で、生徒有志が地域の祭囃子(太鼓)の演奏を行った。各町内で伝承されているものを、真土、中原、豊田の3つのグループに分かれて披露することになり、放課後や休日に学校で練習を行った。

ある地区の好意で借りた太鼓を、生徒たちが手際よく組み立て、締太鼓(つけ)の皮の張り具合を調節し準備していく。順番に楽器を使う中、待っているグループは「テン テレン…」などとリズムを口ずさんだり、それぞれの地区独自の数字や記号が使われている譜面を見たりしながら、確認をしていた。余所から転入して1年余りの生徒も上手く演奏する。太鼓を「身体で覚えていく」生徒たちの練習風景に、地域の教育力のすばらしさが感じられた。

そして、文化祭当日は、体育館に勇壮なリズムが響き渡った。この地域の太鼓は力強さが特徴であるが、そのため練習、本番を通し、バチが何本も折れたことを付け加えておく。



図(写真)3 文化祭ステージより

後で、この演奏について訊ねたところ、次のような感想がみられた。

問. 文化祭で、郷土の音楽である豊田・中原・真土に伝わる太鼓（祭囃子）の演奏がありました。それを聴いて（または演奏して）思ったことを自由に書いてください。

3年生の感想より

- ・日本の伝統が伝わってきた。あと、あれだけうまくできたんだから、そうとう練習したんだと思う。
- ・太鼓の高音と笛の高音がうまくまざりあっていた。
- ・太鼓を聴いていて、何か心の中から熱い物がふきでてきて元気になりました。
- ・太鼓は日本に古くからある音楽だし、力強くて魅力を感じるから、一回は叩いてみたい。
- ・私も太鼓をやっています。私がやっているところのリズムとは少し違いましたが、「あーこんなリズムもあるんだな」という気持ちになりました。
- ・太鼓はただ叩くだけではなく、文化祭のように音が重なればすばらしく変化する。みていたら、炎が吹き出てきそうな勢いだった。
- ・とてもカッコよく、大和魂が感じられた。自分もやれば良かった。
- ・昔の祭の風景が頭に浮かんでくるような感じの音楽だと思いました。
- ・みんなすごくうまいと思った。ばちをふりあげるところなんかも揃っていて良かった。
- ・私は真土の太鼓をたたきました。私は太鼓をたたいていて、太鼓の響き、太鼓から来る振動がたまらなく好きだ。この身体に響き渡る音と、体に伝わる振動が好きで、太鼓をたたいている。太鼓のリズムを覚えるのは大変だけど、太鼓はとても楽しい。

- ・太鼓と笛の音が合っていて、聴いてとても楽しかった。また太鼓の中にも2つの種類があり、その音の違いも興味深かった。
- ・自分もたたけるけど、ステージでやってるのを見てかっこいいと思った。こういう機会があればやってみたい。
- ・日本の楽器には外国の楽器とまたちがうかっこよさがあるから好きです。
- ・あの笛はだれから教わるのだろうと思った。
- ・太鼓はあまり聴く機会がないですけど、文化祭の演奏を聴いて、気分が盛り上がるというより見入ってしまいました。
- ・ピアノなどとは違って音階がないのに、全部同じ音には聞こえなかった。2種類の太鼓しかつかってないのに、あんなに迫力のある演奏ができるのはすごいと思った。
- ・よくあんなに長い演奏をおぼえていられたなと思った
- ・私も小学校の頃太鼓をやっていたけど、文化祭の演奏は迫力があって心に響いてきた。西洋の太鼓もいいけど、慣れ親しんだ日本の太鼓の方がリズムにのれていいと思う。
- ・自分たちの住んでいる地域に、昔からある音楽があるというのはとても良いことだと思った。地域の人とも親しくなれる。
- ・自分も昔太鼓をやっていたので叩くのは好きです。日本の太鼓は何より祭って感じがして、きいていて元気になるので、いつまでも受け継がれていくべきだと思う。
- ・普段静かな人や元気な人も一生懸命やっていた。とてもうまかった。かっこよかった。
- ・祭りに行った気分になった。笛が上手で感激した。私も一回やってみたいと思った。

- ・自分自身も小学生の頃に 10 月にあるお祭りで山車という車に乗って叩いたことがあったので、聴いた時は自分もつられてひざの上で太鼓を叩く真似をしてしまいました。
- ・私も太鼓をやっているので、やりたいなって思いました。太鼓の音を聴いていると、誰でもお祭り気分になれると思いました。
- ・今まで太鼓を近くで見たことが無くて、音だけだと迫力がないけど、やっぱり間近で見るとすごいかっこよかったし、迫力があつた。
- ・伝統的な太鼓は、見ている人にも感動をあたえるし、やっている人も気持ちよく、すばらしい楽器だと思う。
- ・あんなに太鼓の音が合うなんてすごいと思った。私もやっていただけにあんなに合わなかった。すごい。
- ・難しそうだなと思った。あと I くんが叩いていた鉦が気になった。
- ・最初見たときは、鳥肌が立った。「太鼓と笛ってあんなに合うんだ」と初めて知った。私の地区には太鼓が無いので、機会があればさわったり、たたいたりしてみたいです。
- ・とても力強い音が印象に残っています。豊田、中原、真土にすごい太鼓が伝わっていて感心しました。

1年生の感想より

- ・とっても迫力があって、まばたきする暇も無いぐらい真剣に見た。
- ・小学校のお祭りの時に叩いていましたが、またじっくり聴いてみると叩く人の力強さや情熱がすごくわかりました。
- ・とてもいいタイコでした。豊田の祭りの時を思い出しました。力強い太鼓となめらかなリズムは日本一だと思います。
- ・地域によって太鼓のメロディが少し違うんだなと思いました。

- ・私の住んでいる地域ではお祭りでも太鼓はあまりやらないので、文化祭で聴けてとてもよかったです。
- ・自分も太鼓を叩くけれど、みんなのを見ていて叩き方によっていろいろな音が出ておもしろいと思った。YちゃんとK君の笛もカッコイかった。太鼓の大胴（おおど）は力強い音だと思った。

このように、ほとんどの生徒が地元の太鼓のすばらしさを認めている。

5. まとめと今後に向けて

今回の取り組みは、郷土で伝承されている音楽のすばらしさを、学校という場で子どもたちに再認識させる、という意義があったと思う。これからも、市立の中学校という地域との密着性を生かした活動を取り入れていきたい。

特に、「総合的な学習の時間」の一環として、生徒に郷土の伝統音楽を調査・探究させることに関しては、さらに有意義なものにできるよう、方法を検討していきたい。

参考文献

畑中良輔 ほか

2002-a 『中学校の音楽1』、東京：教育芸術社

2002-b 『中学校の音楽3』、東京：教育芸術社

文部省

1998 『中学校学習指導要領（平成10年12月）』、東京：大蔵省印刷局

こうざき みえこ

お茶の水女子大学卒業。同大学院修士課程ピアノ演奏専攻修了。卒業論文『平塚の祭囃子－伝承の現状の考察－』（東洋音楽学会発表）、修士論文『祭囃子と地域社会－神奈川県における事例研究－』。1991年に神奈川県公立学校教員となり、現在、平塚市立神明中学校に勤務。